

(別紙2) 平成 22 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071000428		
法人名	社会福祉法人 桜花会		
事業所名	ライフケア大手門		
所在地	福岡市中央区大手門2丁目5番15号		
自己評価作成日	平成22年7月25日	評価結果確定日	平成22年8月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看取りの経験を重ね、急変時の対応等、スタッフの個々の能力も高まってきたと自負しております。また、積極的な研修参加を目標に挙げ能力向上に努めています。入居者様へは特別な日課を設けず、出来るだけご家庭に近い環境を整備しながらQ.O.Lの向上、認知症の進行防止、筋力維持に努めていきます。また入居者様の日々の記録を詳細にとること等により御家族やスタッフ間での情報の共有を図っています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市中心部の高層にあり、特養等が併設する事業所である。特徴として法人全体での研修体制の充実、1ユニットならではの細やかな支援等が挙げられる。開設10年目を迎えた昨年からは、数名の看取り支援がなされた。主治医、訪問看護、家族、職員が一丸となって行われた支援のもと、終末期の支援手順書を作成している。項目の一つに「ベッド横にソファを設置する」とあり、利用者の最期に寄り添う家族の姿を見たからこそこの発想であると言える。職員の定着率、チームワークも良く、開設以来6人の介護福祉士を輩出している。また、いきいきサロンへの参加等、地域交流も充実してきた。今後も都会での生活を望む高齢者のニーズに応えながら、益々の発展が期待できる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成22年8月23日		

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

### 自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人の尊厳を重んじ優しい笑顔と暖かい手を持って全人的運営を行う...等、4項目の理念を掲げ朝礼時に読み上げ、エレベーターホール、スタッフルームに掲示するなど共有をはかり、面談等でも説明を行い理解を深めながら実践につなげている。	開設にあたり、職員全員で話し合いホーム独自の理念を作り上げた。職員各自が、それぞれ意見を出し合い、理念を具体化して、毎月の目標を定め日々の実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の開催や施設内の交流スペースを使用した地域との交流、地域活動への入居者の参加などを通じて交流を深めている。	併設する地域交流スペースの開放や、地域いきいきサロン等に参加しながら交流の機会を確保している。また、近隣の小学校の運動会の見学や、毎月の保育所からの来訪、地域ボランティアの受け入れ等、法人全体で、幅広い世代との交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じ報告、またあらゆる場面で協力し合えるよう呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況や利用者様個々へのサービス内容などを報告し意見交換を行いながらサービスの向上に努めている。	家族、民生委員、地域包括支援センター職員を招いて2ヶ月毎に開催している。会議ではホームの状況や行事の説明、外部評価の結果報告、改善案の提示、災害時の協力体制、身体拘束や成年後見人制度等について質疑応答や、協議がなされている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム協議会の勉強会等を通じ取り組んでいくよう努力している。	運営推進会議や家族会にて地域包括支援センター職員による講義等の機会を確保している。また、福岡市主催の研修への参加や、市立小学校教諭の実習等の受入れもみられた。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については内部研修においても学ぶ機会を設けている。また、施設において身体拘束廃止検討委員会を設置し取り組んでいる。	法人全体の毎年の研修計画に位置付け、スビ-チロックや行動制限等、身体拘束について話し合う機会を設け、職員全体で啓発する機会を確保している。また、法人全体でも身体拘束廃止委員会を設置し、廃止にむけて取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修として情報誌なども利用し、勉強会を行いながら日頃より防止に努めている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は利用されている入居者様もいらっしゃる為カンファレンスや運営推進会議においても学ぶ機会を増やしている。	法人全体の年間研修として、外部講師を招聘するなど制度の理解と普及に努めている。制度は高齢者・家族にとって有益な情報と捉え、運営推進会議時に制度の概要と利用手順等について説明を行なう等の取組みがある。現在、数名が制度を活用されている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約などの問題以外でも些細なことも出来るだけ相談の機会を設け説明を行い理解と納得を頂くよう努めている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より利用者様、ご家族様のご意見を伺える体制づくりに努め記録にとり周知、運営に反映させている。	運営推進会議時や面会時等を利用して、意見や思いの表出に努めている。意見や苦情については、内容に応じてその場での回答や、職員会議で検討した後に回答するなどの取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、主任等との面談の機会を設け、またカンファレンスにおいても話し合いを行いながら反映させていく体制をとっている。	事業所ミーティングや、施設長、主任、リーダーとの個別面談の機会を確保し、運営全般においても、職員が意見を述べやすいように取り組んでいる。出された意見や申し出に対しては、協議後、会議や面談時等にて回答している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の際には各自に自己評価を行わせ、それを元に面談を行うなど向上心を持って働けるよう努めている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集や採用については制限はなく、勤務表作成時にはスタッフの希望を考慮したり、配置転換の希望が出せるなどの配慮がある。	募集の際に、年齢や性別、資格、経験の有無等による制限はなく、理念への共感や適性等を重視し採用している。職員は年3回以上外部研修に参加し、毎年プライベートの目標を立て、実現にむけて取り組んでおり、事業所も支援している。この過程を経て、計6名の介護福祉士を輩出した実績がある。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に2回内部研修を行いながら取り組んでいる。	毎年の研修計画に位置付け、高齢者虐待防止や成年後見制度、高齢者の権利擁護、人権学習等を、外部講師を招聘して実施する等、法人全体で、学習や啓発の機会を確保している。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けている。年間目標にも外部研修参加各自3回以上と掲げている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会に加入し、勉強会や相互訪問活動を行い、サービスの向上、交流の機会を持っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階においては特にスタッフが聞き手となり、利用者の不安、必要とすることを伺いながら把握し、対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族との関係作りにおいても同様に出来るだけ話す機会を設け、御家族の状況を把握出来るよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を行いながら色々な面でアプローチを行い対応に努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から家事のアドバイスを受たり、共に生活している関係として、一緒に喜怒哀楽を味わい、支えあえる関係作りを努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ御家族に参加して頂けるような催しを企画し、参加して頂くなかで共に支えていく関係を築いている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ関係が途切れないよう支援に努めているが、少しずつ離れていってしまう現状もある。	可能な限り、利用者が継続してきた趣味活動や習慣、馴染みの人達と交流の機会が保てるように支援している。家族と協力しての個別外出、趣味の刺繍等を継続できる様に支援している。	家族関係の多様化に伴い、従来「家族」や「家」が主であった、馴染みの人や場も多様化する傾向にあります。利用者それぞれの「馴染み」の状況に応じた取組みを期待します。
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は把握している。個々の時間も大切にしながら関わりの時間も確保できるよう支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設行事などの連絡を行う場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必ず本人本位で検討、本人の希望に添った支援の提供を行っている。	利用前の情報収集と日々のかかわりを通じて、多角的な視点から、利用者一人ひとりの希望や家族の意向の把握に努めセンター方式等に記録している。毎月もカンファレンスにて職員全員で情報提供を行い、思いや意向についても確認しながら支援している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所される際に御本人の生活歴を御家族から聞き取り、把握した上で接するよう努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況に合わせる為、状態、現状の把握に努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、御本人、御家族、スタッフ、訪問看護など、関係者と共に話し合いながら作成している。	毎月のカンファレンスにて、利用者全員の心身状況、支援手順の周知や確認を行い、記録している。定期的なモニタリングを行い、6ヶ月毎の介護計画の見直しや状態変化時も、同様の過程を経て、現状に即した介護計画を作成している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に御本人が行ったことを記録し、それを活用しながら、要望、気づきにつなげ、計画の見直しや日々の生活に活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせて出来る限り御本人、御家族の要望に応えるような体制作りをしている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御本人の意向、必要性に応じて対応、支援をしていく体制にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族の要望に添うかたちで医療を受けて頂いている。医療関係者との関係も合わせ対応している。	主治医は、利用者家族が選択しており、現在受診介助は全面的に事業所が支援している。歯科からは往診があり、皮膚科や耳鼻科等については、地域の医療機関への受診を支援している。また、訪問看護や併設事業所の看護師とも連携しながら適切に対応している。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師や協力病院の訪問看護と連携しながら健康管理に努め、必要な受診は迅速に行えるよう支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族や病院関係者との情報交換、相談に努め、出来るだけ早期退院が出来るよう支援している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の状況に合わせて、御家族との話し合いが出来るようにしている。その時々状況に合わせて方針の共有を図っている。	予め利用者・家族の意向確認と事業所の方針を説明し同意をとっている。昨年の3名の看取り支援を行った。この過程を経て終末期の支援手順をまとめ書面化した。利用者と家族が過せる部屋配置等、経験を活かした取組みを行っている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスや研修会を通じ急変時の対応や事故発生時の対応を学び実践に活かしている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に行われる施設内の消防訓練等に参加してもらうと共に、運営推進会議を通じ、地域との協力体制も築きつつある。	年2回の消防署の指導による防災訓練を、併設する母体老健と協力しながら実施し、運営推進会議時には非常災害時の地域の協力体制について協議する等の取組みがある。	現在、事業所内でも、夜間想定を含めての訓練を計画されています。建物の構造や避難経路を熟知し、災害時に実践できる対策として訓練に取組まれて行くことを期待します。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に寄り添い、目線に合わせた姿勢や優しい静かな声掛けなど、プライバシーにも配慮した丁寧な対応を心掛け実践に努めている。	個人情報保護についての勉強会等で意識向上を図り、個人記録等も事務所で一括管理や漏洩の防止に努めるなどの取組みがある。接遇については、法人全体で、外部講師を招聘し、就業年数別に研修を実施する等、サービスの質の向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせて対応し、出来る限り自己決定が行えるように支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々や心身の状況を見ながら、その時々に合わせて対応を心掛けている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前の生活状況を伺い、それに合わせた対応に努めている。いつまでもおしゃれでいて頂きたいと願っている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を把握しながら対応し、誕生日にお好きな物を召し上げて頂く等考慮している。準備や片付けは出来る範囲でお願いし職員と一緒にやっている。年に数回バイキングや外食の機会を設けている。	昼食については、栄養バランスや利用者の好み等を取り入れ、買物準備、調理、配膳等を職員と利用者が協力して行っている。利用者と同じテーブルを囲み食事を楽しむ様子が伺えた。また、職員の食事代を助成し、利用者と職員が同じ食事をとれるように配慮している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が確保出来るよう出来るだけこまめに摂って頂く等、個別で対応している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけ御本人の生活ペースに合わせてながら支援していくと共に義歯の消毒、歯科往診等必要に応じたケアをしている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行いながら、出来るだけトイレで排泄して頂くよう努めている。	利用者毎の排泄パターンを把握し、介護計画書に位置付け支援している。現在は、自立の利用者も多く投薬コントロール等についても、情報を共有し、個別に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては個々に合わせた対応を行うようにし、食物繊維を多く摂ってもらう、体を動かす、暖める等で取り組んでいる。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は基本的に毎日行い、個々の希望、体調、タイミングをみて時間を決めずに行っている。	毎日入浴できる用に準備し、利用者の意向にそって支援している。最低でも隔日入浴とし、身体状況により入浴できない場合でも、清拭、シャワー浴、足浴等工夫しながら清潔保持の機会を確保している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ、就寝、起床と特別時間を決めずに対応している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬、状態を把握し、看護師、医師と連携を図りながら服薬支援を行っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた役割(配膳、植木の水やり等)を設け、生活に少しでも張りを持って頂くよう努めている。気分転換に1階にてお茶を飲んだり、屋上を散歩して頂くこともある。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に合わせて買い物や食事等、検討を行い機会を少しでも多くもてるよう努めている。	花見や行楽など定期的に計画立てての外出のほかに、日常的な散歩や買物等、家族とも連携しながら対応している。また、併設する地域交流スペース等で、気軽に気分転換が図れるように支援している	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人の意向も踏まえ、御家族と相談のうえ対応している。全員は難しいが所持している方については買い物の際御自分で管理をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は御希望があれば、住所書きなどお手伝いをしたり投函している。電話については掛けたいときに対応している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場として適したものとなるよう努めている。その時々写真や季節の花、季節に合わせ七夕飾り、クリスマス飾り、雛飾りなどを置く等工夫している。室温管理、こまめな清掃に努めている。	ビルの6階にあり、自然換気と採光で快適な空間となっている。リビングは広く、車椅子や歩行器でも安全に移動でき、ソファ等を設置しゆったりとくつろげる。また、相談室や家族が宿泊できるゲストルーム等も設備され、広いベンダも多目的に活用している。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が自由に過ごせたり、気の合う方同士で自由に過ごせる居場所の確保は出来ている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れたものを持ち込んで頂き、御自宅での生活の延長と考え対応している。	洋室にベット、床灯台、クローゼット等が設備されている。利用者と家族が相談して、寝具や調度品、家族の写真等の馴染みのものを持参している。部屋窓が大きく、どの部屋からも街並や、夜景が楽しめるようなつくりとなっていた。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設置し、テーブル等の高さにも配慮している。手の届く位置にアルバムを配置する等工夫している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係が できている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 2010/8/30 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		